

都道府県	宮城県
------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	涌谷町立涌谷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	1	14	26
生徒数	137	148	165	2	452	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を身に付け、自ら学ぶ生徒の育成
学習指導の工夫・改善を通して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・必修教科9教科
全校体制で研究を推進するため
必修教科9教科の特性を生かし、研究仮説に則って指導実践することにより研究主題に迫る。

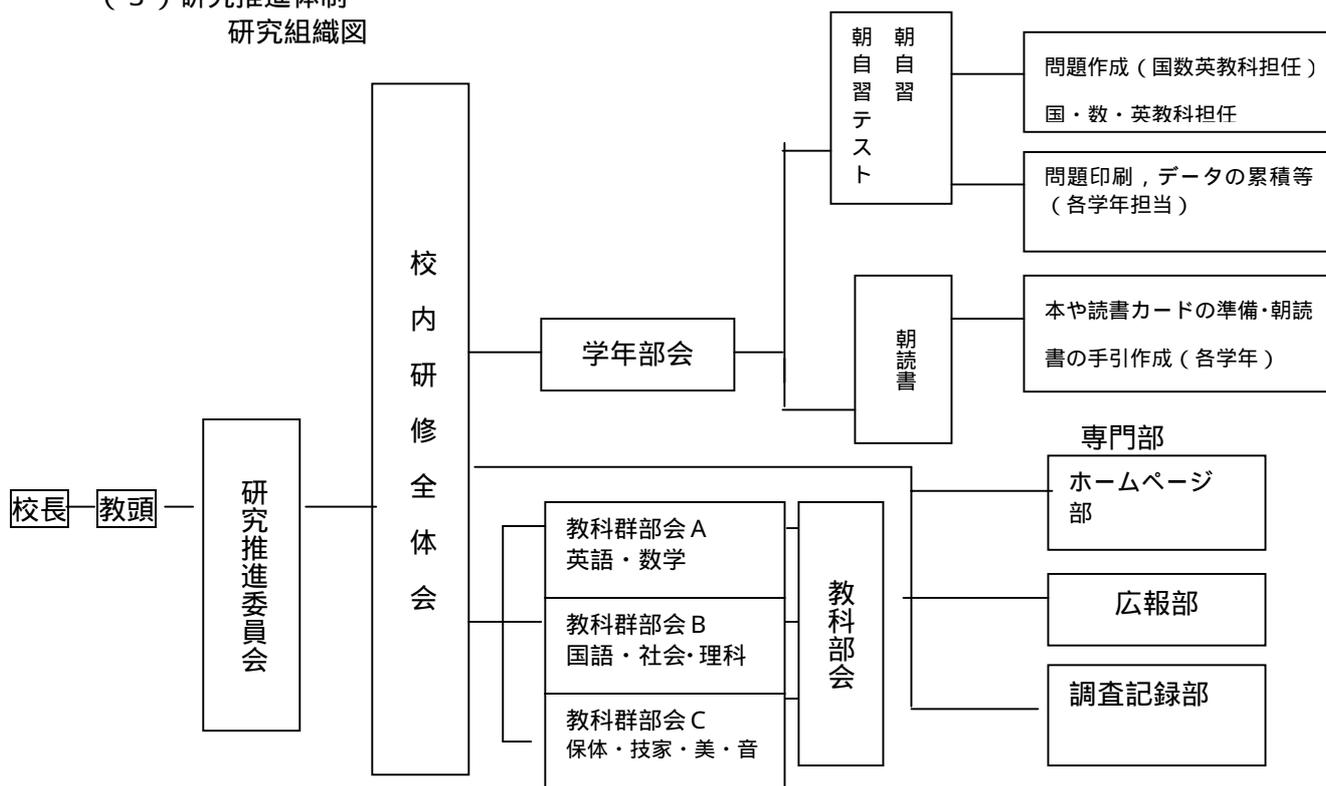
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「基礎・基本を身に付け、自ら学ぶ生徒の育成」 学習指導の工夫・改善を通して</p> <p>研究の見通し（研究仮説） 各教科の学習において、次の共通の視点で指導の工夫・改善を行うならば、基礎・基本を身に付け、自ら学ぶ生徒が育つであろう。</p> <p>(1) 個に応じた授業の工夫 個に応じた学習課題の作成と活用 生徒一人一人の学習状況の把握とそれをもとにした指導の工夫</p> <p>(2) 生徒が主体となって活動する学習過程の工夫</p> <p>(3) 学習事項定着のための工夫 「習得目標」を活用した自己評価と教師による習得認定 学習方法を定着させるための「学習の手引」作成とその活用</p> <p>研究の内容・方法 必修教科9教科の特性を生かし、研究仮説に則って指導実践をしているが、ここでは(1)個に応じた学習課題の作成と活用(2)個に応じた授業の工夫(3)指導と評価の計画と観点別評価記録簿 について記述する。</p> <p>(1) 個に応じた学習課題の作成と活用：例 数学科2年 別添資料1 習熟度の差が大きいため、問題練習では、難易度別の課題を用意し、生徒に選択させ取り組ませる。教師は、生徒のつまずきの把握を行い、授業で補充や個別指導を行う。</p> <p>(2) 個に応じた授業の工夫：例 英語科・数学科における習熟度別少人数指導2・3年生 英語科2年生少人数指導 別添資料2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学級を習熟度別2段階3コース（基本2コース,発展）に分けた少人数指導 ・生徒の希望によるコース選択制。学期ごとコース分け(年間3回) ・生徒に自己選択させる「めやす」として少人数指導コース選択の手引を作成 数学科2年生少人数指導 ・2学級を習熟度別3段階3コース（基本1,基本2,発展）に分けた少人数指導
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望によるコース選択制。領域ごとコース分け(年間3回) <p>(3) 指導と評価の計画と観点別評価記録簿：例 英語科2年 別添資料3 1単位時間あたりの目標を1つに焦点化し，ユニット全体で4観点全て評価できるようにした。その目標に対して生徒一人一人の学習状況を累積するとともに，1単位時間あたりの生徒のつまずきや到達度を個別に把握して，授業で更に説明をしたり，個別の課題を与えるという補足的・発展的指導を行っている。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 平成15年度のテーマを継続の予定 研究の見通し ・実践の累積と各調査のデータから仮説の妥当性を探り，授業改善を図る。</p> <p>研究の内容・方法 ・必修教科9教科の特性を生かした授業実践を累積し，仮説の検証をする。 ・4月生徒意識調査(3回目)5月にCRT検査(2回目)と教科ごとの意識調査(3回目)を行い，生徒の学習状況の変容を捉える。成果と課題を客観的に把握するとともに，課題の解決に向けて，教科(群)単位で研究を深める。 ・平成15年度版「習得目標」と「学習の手引」を改良し，生徒の学習習慣の形成と基礎・基本的事項の定着に資する。 ・1学期に校内研修，研究授業と授業検討会をもち，教師の指導力向上に資する。 ・公開研究会を平成16年10月15日に開催し，参加者からの意見や助言を生かし2年間の本研究のまとめを行う。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制
研究組織図



- 研究体制上の工夫
- (1) 9教科を教科群ABCに分け群の特性を生かした研究に共同で取り組めるようにした。
 - (2) 学校の限られた人員・時間を最大限に活用するために，研究推進委員会，教科部会，専門部会を月1回同日にもつ。同日に部員が揃わない場合を考え，教科部会の予備日を設定するなどという時程上の工夫を行った。
 - (3) 学力向上の校内指導體制の確立と全教師の共通理解のために，教科群ABCの各主任による研究推進委員会を設置した。
 - (4) 実践研究であるので，研究組織については，全教師が教科(群)部会，学年部会，専門

部の3つの部会に必ず所属することで、責任と分担の所在を明確にするとともに、組織的に研究に当たれるようにした。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果として次のことがあげられる。

- (1) 生徒の学力をCRT検査で客観的に把握でき、学力向上フロンティア事業として本校が取り組むべき課題が明確になった。町の予算措置有り。
- (2) 生徒の学習意識調査を定期的に行うことで、生徒の意識や実態を客観的に把握でき、教師の指導法の工夫・改善に生かされた。別添資料4
- (3) 外部講師を招聘した校内研修や、研究に関する討議を継続することで、各教師に学習指導に対する意識が高まり、教材研究が深まってきた。
- (4) 少人数指導や種目選択制を始めとする多様な指導体制や学習形態をとることで個に応じた学習が展開でき、生徒の学習意欲が高まってきていることが分かる。別添資料5
- (5) 9教科の特性を生かした指導の工夫・改善を行うことで、多様な学習活動が展開できるようになり、生徒が主体的に学ぶようになった。
- (6) 重視すべき「基礎・基本」の具体的内容を「習得目標」の形で明確化し、生徒に提示することで、教師・生徒双方にとっての学習の重点が明確になり、指導と評価の一体化が図りやすくなった。
- (7) 「学習の手引」で生徒が自学自習できる学習の方法を提示することにより、望ましい学習習慣の形成ができてきたことが読み取れる。別添資料4
- (8) 全校体制での朝自習・朝読書や放課後の学習会等を通して、落ち着いて学習する雰囲気が学校全体にできてきた。

2. 今後の課題

- (1) 生徒の学習状況 基礎学力の定着度、到達度 の把握と、それに応じた実践研究の累積
- (2) 生徒が主体となって活動する多様な学習過程の工夫
- (3) 9教科における多様な習熟度別学習指導の工夫
- (4) 教科の特性に応じた、教科年間カリキュラムの見直しと改善

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 学力の把握
CRT検査 平成15年度 第1回 5/23(全学年) 第2回 2/9(3年)
平成16年度 第3回 5月(全学年)
定期考査、校内実力テスト、教科ごとの単元テスト
- (2) 学習意識調査 平成15年度 第1回 4月(全学年) 第2回 1月(全学年)
平成16年度 第3回 4月(全学年)
- (3) 教科ごとの学習意識調査
平成15年度 第1回 10月(全学年) 第2回 2月(全学年)
平成16年度 第3回 5月(全学年)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 学力向上フロンティアスクール公開研究会
日時：平成16年10月15日(金)
場所：遠田郡涌谷町立涌谷中学校
対象：必修教科9教科(予定)
会の目的：・研究成果を公開することで県内の小・中学校教員の指導力の向上に資する。
・参加者の意見や助言を生かして本研究を改善し2年間の研究のまとめとする。
2. 1年次まとめの冊子を作成し、教育事務所や管内各教育委員会、各小・中学校へ送付予定(平成16年3月の予定)
3. ホームページアドレス
<http://academic3.plala.or.jp/wakuya49/index.html>

4. 学力向上フロンティアスクール新聞の発行（配布対象：本校生徒並びに保護者）
 月2回発行 平成15年度は第1号から第7号まで発行
5. 各種研究会での発表

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックする事。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---------------------------------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | TTによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | | 無 | |

資料1 個に応じた学習課題の作成と工夫：

数学科2年 単元名 連立方程式 各コースの難易度別ワークシートの例

難易度	基本コース1	基本コース2	発展コース
A 易	加減法についての基本的な問題	加減法 絶対値が等しい	加減法と代入法
B	括弧や少数・分数を含んだ連立方程式	加減法 絶対値が異なる	括弧や分数，少数のある計算
C	代入法問題	代入法	解と係数の問題 応用
D	連立方程式の利用に関する問題	いろいろな方程式	数や個数の問題 応用
E 難		連立方程式の利用	時間や割合の問題(応用)

資料2 <少人数指導コース選択の手引の例 2年英語>

次の項目の当てはまる方に つけましょう。

	A：基本	B：発展
1 1年生の授業の進み方	ちょうどよかった。 もっとゆっくり進んでほしかった。	もっと速くてもよかった。
2 1年生の授業で学習した分量	ちょうどよかった。 もっと少なくてもよかった。	もっと多くてもよかった。
3 学習内容	教科書の内容を確実に理解したい。	教科書の内容を確実に理解したい。 教科書の内容をもっと詳しく学習したい。 英語の歌を聞いたり外国の文化など教科書以外のことも学習したい。

以下省略

資料3 指導と評価の計画と観点別評価記録簿

英語科2年 Unit 6

指導と評価の計画

時間 p	内容	十分満足できる(発展レベル)	おおむね満足できる(基本レベル)	努力を要する状況への手立て	観点
1 64	Starting out	There is /There are の文を理解し,本文をおおむね暗写して書くことができる。絵を参考にし, There is There are で始まる英文を工夫して10文書くことができる。	There is /There are の文を理解し,本文の重要な語を空所補充で書くことができる。	1・2	書くこと
2 65	Dialog	There is/There are の疑問文と答えを理解し,絵に基づいて自分の考えも入れて,英語で問答しあうことができる。	There is/There are の疑問文と答えを理解し,絵に基づいて英語で問答しあうことができる。	4・6・7	話すこと 聞くこと
3 66	Reading for Communication	finish,enjoy,stop + 動名詞の文を理解し,ワークシートの問題に正確に答えることができる。 本文の内容を理解し,英問英答に答えることができる。	finish,enjoy,stop + 動名詞を理解し,ワークブックの1中級をおおむね答えることができる。 本文の内容を理解し,日本語で空所補充することができる。	1・2・3	読むこと 書くこと

以下省略

資料４ ・ 生徒の学習意識調査から抜粋（平成１６年１月実施 対象全学年）

+ 1よくあてはまる 2どちらかといえばあてはまる 3どちらかといえばあてはまらない 4 全くあてはまらない



資料5 生徒の英語・数学少人数指導の意識調査から抜粋（平成16年1月実施 対象2、3年生）

+ 1よくあてはまる 2どちらかといえばあてはまる 3どちらかといえばあてはまらない 4 全くあてはまらない -

